

2025年10月7日(火) 正午 情報公開

ミューザ川崎シンフォニーホール×東京交響楽団(創立 80 周年) 2026 年度特別公演

L. ヴィオッティ指揮「七つの封印の書」



写真左上から)ロレンツォ・ヴィオッティ©Jan Willem Kaldenbach/マキシミアン・シュミット©Christian Kargl/フランツ=ヨゼフ・ゼーリヒ©Marion Koell/クリスティーナ・ランツハマー© Marco Borggreve/
カトリオーナ・モリソン©Jeremy Knowles/パトリック・グラール©Guido Werner/クレシミル・ストラジャナッツ©Patrick Vogel/大木麻理©Mari Kusakari

ミューザ川崎シンフォニーホール(神奈川県川崎市幸区大宮町 1310)は、東京交響楽団との 2026 年度特別公演として、**次期音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティ指揮**による**フランツ・シュミットの大作オラトリオ「七つの封印の書」**を 2026 年 9 月 21 日(月・祝)に上演いたします。

本公演は、川崎市フランチャイズオーケストラの**東京交響楽団創立 80 周年**、そして**第 4 代音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティの就任(2026 年 4 月～)**を記念して同響の本拠地であるミューザ川崎シンフォニーホールで開催するものです。

「七つの封印の書」はヨハネの黙示録に基づいて作られたもので、1977 年に東京交響楽団が日本初演(*)を行いました。20 世紀を代表する傑作オラトリオであり、戦争や飢饉、地震などの災害、環境破壊といった現代社会が抱える様々な危機や、人間の希望や信仰の在り方に、音楽を通して向き合う意義深い公演となります。

作品の中心となるヨハネ役(テノール)には、**マキシミアン・シュミット**が登場。本作品の経験も豊富で、宗教曲を得意とする彼の歌声は「ゲロンティアスの夢」ゲロンティアス役(2018 年、ノット指揮)でも高い評価を得ました。神の声役(バス)には、世界の有名歌劇場で活躍する**フランツ=ヨゼフ・ゼーリヒ**が登場。このほか、瑞々しく透明感のある美声で名匠からも信頼厚い**クリスティーナ・ランツハマー**(ソプラノ)、「ばらの騎士」オクタヴィアン役(2024 年、ノット指揮)で喝采を浴びた**カトリオーナ・モリソン**(メゾ・ソプラノ)、国際 J.S.バッハコンクール第 1 位(2016 年)の逸材**パトリック・グラール**(テノール)、「ドン・ジョヴァンニ」マゼット役(2017 年、ノット指揮)で好評を得た注目のバス・バリトン **クレシミル・ストラジャナッツ**という国際的に活躍する実力派歌手陣と、ミューザの楽器を熟知するオルガニスト**大木麻理**が出演します。日本初演から約 50 年の時を経ての本公演にぜひご期待いただき、告知にご協力を賜れますと幸いです。

(*フィルハーモニー合唱団主催)

記

公演名	ミューザ川崎シンフォニーホール×東京交響楽団×ロレンツォ・ヴィオッティ指揮 フランツ・シュミット:オラトリオ「七つの封印の書」
日時・会場	2026 年 9 月 21 日(月・祝)14:00 開演 *16:30 終演予定/会場:ミューザ川崎シンフォニーホール *2026 年 9 月 19 日(土)にサントリーホールにて東京交響楽団主催の同内容公演がございます。
曲目・出演者	フランツ・シュミット:オラトリオ「七つの封印の書」 指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ(東京交響楽団 次期音楽監督) /管弦楽:東京交響楽団 テノール(ヨハネ):マキシミアン・シュミット /バス(神の声):フランツ=ヨゼフ・ゼーリヒ ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー /メゾ・ソプラノ:カトリオーナ・モリソン テノール:パトリック・グラール /バス・バリトン:クレシミル・ストラジャナッツ パイプオルガン:大木麻理 /合唱:東響コーラス

チケット [料金] S 席¥16,000 A 席¥13,000 B 席¥10,000 C 席¥8,000
[発売] 調整中
[問合] ミューザ川崎シンフォニーホール Tel. 044-520-0200(10:00~18:00)
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/>

主催・共催 主催: 川崎市、ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)
共催: 東京交響楽団

以上

◆出演者プロフィール



© Jan Willem Kaldenbach

指揮:ロレンツォ・ヴィオツティ(東京交響楽団 次期音楽監督) Lorenzo Viotti, Conductor / Music Director Designate
1990年スイス・ローザンヌ出身。同世代の指揮者のなかで最もダイナミックな活動が目立っている指揮者。いまヨーロッパの名門オーケストラ、歌劇場から引く手あまたの存在。2015年のザルツブルク音楽祭でネスレ・ヤング・コンダクター賞を受賞。カダケス国際コンクール、ライプツィヒ MDR コンクールなど、数々の権威ある指揮者コンクールでも優勝。2017年国際オペラ・アワード「ニューカマー・オブ・ザ・イヤー」受賞。2018年から2021年までポルトガル・グルベンキアン管弦楽団首席指揮者、2021年から2025年までオランダ・フィルハーモニー管弦楽団とオランダ国立オペラの首席指揮者を務めた。ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、クリーブランド管、スウェーデン放送響、ロイヤル・フィル、ミュンヘン・フィル等を指揮。2024年6月には、ウィーン・フィルのドイツ・スイス・スペインツアーを率いた。2026/27年シーズンより東京交響楽団第4代音楽監督に就任する。



© Christian Kargl

テノール(ヨハネ):マキシミリアン・シュミット Maximilian Schmitt (Tenor), Johannes
ドイツ出身。ベルリン芸術大学で学ぶ。バイエルン国立歌劇場、ミュンヘン・オペラ、マンハイム国立歌劇場、オランダ国立歌劇場等でモーツァルトやワーグナーの主要作品を数多く歌う。モーツァルト、モンテヴェルディからメンデルスゾーン、マーラー等幅広いレパートリーを持ち、ノット、ウェルザー＝メスト、ペトレニコ等の指揮者陣のもと、チューリッヒ・トーンハレ管、クリーブランド管、ゲヴァントハウス管、バイエルン放送響、バリ管等へ客演を重ねている。2018年ノット指揮東京交響楽団「ゲロンティアスの夢」(ゲロンティアス役)ではその圧倒的な美声が高く評価された。シュミット「7つの封印の書」は自らのレパートリーの一つとして手中に収めた作品である。



© Marion Koell

バス(神の声):フランツ＝ヨゼフ・ゼーリヒ Franz-Josef Selig (Bass), Stimme des Herrn
シリアス・バスという分野で世界的に最も名の知られた歌手の一人で、グルネマンツ、マルケ王、ザラストロ、ロッコ、オスミン、ダーラント、フィエスコ、ファーゾルト等を歌う。ケルン音楽舞踊大学で宗教音楽を学んだ後、エッセンのアルト劇場のアンサンブル・メンバーとしてプロ活動をスタートした。バイエルン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、マドリッドのテアトロ・レアル、パリ・オペラ座、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場等世界のあらゆる有名歌劇場に出演している。一流の音楽祭にも登場しており、ティーレマン、ラトル、メータ、ムーティ、ネゼ＝セガン等の指揮者と共演を重ねている。



© Marco Borggreve

ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー Christina Landshamer (Soprano)
ドイツのミュンヘン生まれ。同地の音楽院で学んだ後、シュトゥットガルト音楽演劇大学にて、コンラート・リヒターのリサイタル・クラスとドゥニヤ・ヴェイゾヴィチのソリスト・クラスで学ぶ。シュトゥットガルト州立歌劇場他で契約歌手を務めた後、ザルツブルク音楽祭でラトル指揮ベルリン・フィルと共演。アーノンクール、ブロムシュテットらトップレベルの指揮者たちと共演を重ね、オペラとコンサートで活躍する。宗教作品のソリストとしても活躍。ブロムシュテットら名匠からの信頼も厚い。



© Jeremy Knowles

カトリオーナ・モリソン(メゾ・ソプラノ) Catriona Morison (Mezzo Soprano)
スコットランド・エジンバラ生まれ。スコットランド王立音楽院とベルリン芸術大学で学ぶ。2015年、ザルツブルク音楽祭にフランツ・ウェルザー＝メストによるヤング・シンガーズ・プロジェクトの一員としてデビュー。以降、エディンバラ国際音楽祭、ケルン歌劇場、ベルゲン国立歌劇場などに出演。BBC プロムス、ウィーン・フィルにもデビューを果たした。2024年、ノット指揮東京交響楽団「ばらの騎士」(オクタヴィアン役)で共演、美しく透明感のある歌声と豊かな表現力が強い印象を残した。



©Guido Werner

テノール:パトリック・グラール Patrick Grahl (Tenor)

ドイツ・ライプツィヒ生まれ。フェリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学にてベルトルト・シュミットに声楽を師事。マスタークラスを優秀な成績で修了した。2016年ライプツィヒで開催された第20回国際ヨハン・セバスチアン・バッハコンクールで第1位。オラトリオ歌手として特に高い評価を得ており、ガーディナー、ラトル、ユロフスキー、ガッティ、メータ等の指揮者のもと、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ドレスデン・シュターツカペレ、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、ロンドン響等と共演している。



© Patrick Vogel

バス・バリトン:クレシミル・ストラジャナツ Krešimir Strazanac (Bass Baritone)

クロアチア出身。シュトゥットガルト音楽演劇大学で学び、数多くの国際コンクールで優勝。これまでにプロムシュテット、サンティ、フェドセーエフ、ハイティンク、ホーネック等世界的な指揮者のもと、バイエルン放送響、コンサートヘボウ管、フランクフルト放送響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管等数多くのオーケストラと共演。2023年にはペトレニコ指揮ベルリン・フィルデビュー、2025年ロサンゼルス・フィルデビューした。2016年、ノット指揮東京交響楽団とブラームス「ドイツ・レクイエム」、2017年モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」(マゼット役)で高評を得た。



©Mari Kusakari

大木麻理 Mari Ohki, Organ

静岡市出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。DAAD、ポセール財団の奨学金を得てドイツに留学し、リュベック国立音楽大学、デトモルト国立音楽大学にて学ぶ。満場一致の最優等で国家演奏家資格を得て卒業。第3回ブクステフーデ国際オルガンコンクールでは日本人初の優勝。マインツ国際オルガンコンクール第2位、第65回「ブラハの春」国際音楽コンクールオルガン部門第3位、併せてチェコ音楽財団特別賞受賞。国内外の主要オーケストラ、アンサンブルと共演多数。2018年から2026年3月までミュゼ川崎シンフォニーホールオルガニスト。

東響コーラス Tokyo Symphony Chorus

1987年9月11日、東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指導者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招き、公演ごとに出演者を決定するオーディションを行うことで常に演奏の質を高めている。歴代音楽監督の秋山和慶、ユベール・スダーン、ジョナサン・ノットからの信頼も厚い。またこれまでに朝比奈隆、ヘリベルト・バイセル、飯守泰次郎、飯森範親、小泉和裕、クリストフ・エッセンバッハ、大友直人、小林研一郎、井上道義、グスタフ・クーンなど名匠との共演を重ねる。2020年にはアマチュア合唱団として初めて「ミュージック・ペンクラブ音楽賞 室内楽・合唱部門」を受賞。

東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し、現在に至る。

2004年7月より、川崎市のフランチャイズオーケストラとしてミュゼ川崎シンフォニーホールを拠点に定期演奏会や特別演奏会を開催し、市内での音楽鑑賞教室や巡回公演、川崎フロンターレへの応援曲の提供など多岐にわたる活動を行う。川崎市文化賞、文部大臣賞をはじめとする日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場開場時よりレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当し、教育面では「0歳からのオーケストラ」などが注目されている。海外公演も多く、ウィーン楽友協会を含む59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でミュゼ川崎シンフォニーホールからライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年には史上最多45カメラで《第九》公演を配信した。2020年には「マッチングギフトコンサート」が川崎市の支援のもと開催され、自治体とオーケストラによる前例のない取組が注目を集めた。「モーツァルト演奏会形式オペラシリーズ」、ミュゼ川崎シンフォニーホール開館15周年記念公演《グレの歌》に続き、「R.シュトラウスコンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。

◇本リリースに関するお問合せ

ミュゼ川崎シンフォニーホール 広報営業課

Tel. 044-520-0100(10:00~18:00) press@kawasaki-sym-hall.jp